

ら若かれを求めなを彼に遇え、然どかれを棄たざれば、汝らも棄たざらん。抑イスラエルに眞の神なく、
 教訓を施す祭司なく、律法なきこと日久しかりしが、患難の暇、イスラエルの神、王ホバに立かへりて之を
 求めたれど、即ちこれに遇り、當階へ出る者にも入る者にも不安なく、惟大なる苦患く、にの民に臨め
 り、國六に邑八に擊碎かる、其ハ神諸の患難をもて之を害しめたまへばなり。然バ汝ら強かれよ、
 汝らの手を弱くする勿れ、汝らの行爲にハ賞賜あるべけれなりと、アサこれらの言および預言者ホバ
 アナの預言を聽て力を得、懼むべき者をコザとベニヤミンの全地より除き、また其エフラヤムの山地を得
 たる邑々より除き、エホバの廊の前なるエホバの壇を再興せり。彼またユガとベニヤミンの人々および
 エフラヤムナセシムンより來りて寄寓る者を集めたり、イスラエルの人々の中、エホバの神のアサと僧
 に在りてを見て、アホ降れる者夥多かりしなり。彼等すなわちアサの治世の十五年の三月、エラサレム
 集り、其たづさ來れる採取物の中より、年七百七十七、その日エホバも獻げ、皆契約を結びて曰く心を
 盡し、精神を盡して先祖の神、エホバを求めん。凡てイスラエルの神、エホバを求めざる者ハ大小男女の區別
 なく之を殺さん、而して大聲を擧げ、號呼をなし、喇叭を吹き、角を鳴して、エホバにお誓を立て、ユマみな
 の誓を喜べり、即ち彼ら一心をもて誓を立て、一念、エホバを求めたれば、エホバこれお禮、四方おいて
 之にお安息をたまへり。偕またアサ王の母、アカア、エホバを作りしこと、有ければ、アサこれを貶して太后た
 らしめず、その像を飲たふして粉々砕き、キプロン川にてこれを流り、但し崇仰ハ尙イスラエルより除
 かざりき。然どもアサの心ハ一生の間全かりしなり。彼ハまたその父の納めたる物および巴が納めたる
 物すはらち金銀ならび、器皿等をエホバの家に携へいれり。アサの治世の三十五年まで、再び戦争おら

二代十四
 三代十四
 四代十四
 五代十四
 六代十四
 七代十四
 八代十四
 九代十四
 十代十四
 十一代十四
 十二代十四
 十三代十四
 十四代十四
 十五代十四
 十六代十四
 十七代十四
 十八代十四
 十九代十四
 二十代十四
 二十一代十四
 二十二代十四
 二十三代十四
 二十四代十四
 二十五代十四
 二十六代十四
 二十七代十四
 二十八代十四
 二十九代十四
 三十代十四
 三十一代十四
 三十二代十四
 三十三代十四
 三十四代十四
 三十五代十四
 三十六代十四
 三十七代十四
 三十八代十四
 三十九代十四
 四十代十四
 四十一代十四
 四十二代十四
 四十三代十四
 四十四代十四
 四十五代十四
 四十六代十四
 四十七代十四
 四十八代十四
 四十九代十四
 五十代十四

アサの治世の三十六年、イスラエルの王、アハズヤ、コザに攻め、コザの王アサの所に誰を
 も往來せざらしめ、たどてラマを建たり。是に於いて、アサエホバの家と王の家の、府庫より金銀を取、
 シダスコに在るスリアの王、ベチアハズ、お饑れて言ける、我父と汝の父の間の如く、我と汝の間、約を
 立、我今汝を金銀を饑れり、往て汝とイスラエルの王、アハズヤとの約を破り、彼をして我を離れて去
 しめよ。ベチアハズすなわちアサ王も、自己の軍勢の長等をイスラエルの邑々、攻遣ければ、彼等、イヨ
 ツ、ダ、ン、ア、ム、ル、イ、ム、および、ナ、フ、ア、リ、の一切の府庫の邑々を撃たり。アハズヤ、ラマを建ること罷
 めるの工事を廢せり。是に於いて、アサ王、コザ全國の人を率、アハズヤが、ラマを建る、お用、た、る、石、と、材、木
 を運びきたらしめ、之をもて、ゲ、バ、と、ミ、バ、を建たり。○この頃、先見者ハナニユガの王アサの許にいたりて
 之お言ける、ハズ、ハ、ス、リ、ア、の王、お傍顧みて、汝の神、エホバ、お傍顧まざりし、お因て、ス、リ、ア、の王の軍勢、ハズの手を
 脱せり。かのエホバ、アハズ、ハ、ス、リ、ア、の王、お傍顧みて、汝の神、エホバ、お傍顧まざりし、お因て、ス、リ、ア、の王の軍勢、ハズの手を
 も、汝、エ、ホ、バ、お傍顧み、た、れ、バ、エ、ホ、バ、か、れ、ら、を、汝、の、手、お、付、し、た、ま、へ、り。エ、ホ、バ、ハ、全、世、界、を、徧、く、見、る、不、は、し、已
 に、む、か、ひ、て、心、を、争、う、す、者、の、た、め、お、力、を、顯、し、た、ま、へ、り。こ、の、事、お、お、い、て、汝、ハ、愚、なる、事、を、な、せ、り、故、お、此、後、ハ
 汝、お、戦、争、あ、る、べ、し、と。然、る、お、ア、サ、の、先、見、者、を、怒、り、て、之、を、獵、食、お、い、れ、た、り、其、ハ、烈、しく、こ、の、事、の、た、め、に
 彼、を、怒、り、た、れ、バ、な、り、ア、サ、た、其、頃、民、を、虐、げ、た、る、事、あ、り、き。○アサの始終の行爲ハ、ユガとイスラエルの
 列王の書お記さる。アサハ、その治世の三十九年に、足を病み、その病患、つひお劇しくなりしが、その病患の暇
 おも、エ、ホ、バ、を、求、め、ず、し、て、醫、師、を、求、め、た、り。ア、サ、の、先、祖、等、お、倍、に、獲、り、の、治、世、の、四、十、一、年、お、死、り、人、衆

一代十四
 二代十四
 三代十四
 四代十四
 五代十四
 六代十四
 七代十四
 八代十四
 九代十四
 十代十四
 十一代十四
 十二代十四
 十三代十四
 十四代十四
 十五代十四
 十六代十四
 十七代十四
 十八代十四
 十九代十四
 二十代十四
 二十一代十四
 二十二代十四
 二十三代十四
 二十四代十四
 二十五代十四
 二十六代十四
 二十七代十四
 二十八代十四
 二十九代十四
 三十代十四
 三十一代十四
 三十二代十四
 三十三代十四
 三十四代十四
 三十五代十四
 三十六代十四
 三十七代十四
 三十八代十四
 三十九代十四
 四十代十四
 四十一代十四
 四十二代十四
 四十三代十四
 四十四代十四
 四十五代十四
 四十六代十四
 四十七代十四
 四十八代十四
 四十九代十四
 五十代十四

ふ汝是等をもてスリア人を御で滅ぼし盡すべしと預言者みな斯預言して云ふギレアのラモテに攻上りて勝利を得たまへ、エホバこれ王の手に付じたまふべしと、汝に「ミカヤを召んて往たる使者これに語りて言ける預言者等の言ハ一の口より出るがごとくにして王に善し、請ふ汝の言をも彼らの一人のごとくなして善事を言へ」ミカヤ言けるハエホバの言ハ所を我の陣へと、かくて王に至るに王がこれに言けるハ「ミカヤよ我らギレアのラモテに往て戦かふべきや又ハ罷べきや、彼言けるハ上りゆきて利を得たまへ、彼らりの手に付じたまふ」と王がこれに言けるハ「我幾度なたがを誓はせたらば汝エホバの名をもて唯眞實のみを我に告るや、彼言けるハ「我ハエホバの皆牧者なき羊のごとく山に散るを見たるがエホバ是等の者ハ士なと各々やすらかに其家に歸るべしと言たまへり、イスラエルの王是に於いてヨシヤバテに言けるハ「我なんがに告て彼の善事を我に預言せしむ只惡き事のみを預言せんと言じに非ずやと、ミカヤ又言けるハ「然バ汝らエホバの言を聽べし、我視してエホバの位に坐し居たまひて天の萬軍の傍に右左に立をりしが、エホバ言たまひけるハ「誰かイスラエルの王アハズを誘ひて彼をしてギレアのラモテにのぼりゆきて彼處に斃れ去めんか」と、即ち「ハ此でごとくせんと言ひ、ハ彼おどくせんと言けれ、遂に一の靈すゝと出てエホバの前に立ち、我かれを誘へんと言たらば、エホバ何をもてするか」と之に問たまふに、我いで「虚言を言ふ靈となりてうの諸の預言者の口にあらんと語り、エホバ言たまひけるハ「汝ハ驕ひ且あはれを成厥ん、出て然すべし」と、故に禱ふ、エホバ虚言を言ふ靈を汝のこの預言者等の口に入たまへり、而してエホバ汝に災禍を降さんと定めたまふと、時にクナアの子ゼデキヤ近よりて「ミカヤの頬を批て言けるハ「エホバの靈何の途より我を離れゆきて汝と言ふや、ミカヤ言けるハ

歴代志下六廿四節
三平廿四節
一節六廿四節

一節二六廿四節
一節三六廿九節
一節三〇六廿五節

汝奥の室にひりて身を匿す日に見へし、イスラエルの王の王のひけるハ「ミカヤを取てこれを邑の卒アモツおよび王の子ヨアッに與かへりて言べし、王かく言ハ「我が安然に歸るまで、此者を牢にいて苦惱のパンを食せ、昔惱の水を飲せよ」と、ミカヤ言けるハ「汝も眞に不安に歸るなら、バエホバ我によりて斯宣ふし事あらまど、而してまた言り、汝ら民よ皆聽べし」と、かくてイスラエルの王およびエホバの王ヨシヤバテハギレアのラモテに上りゆけり、イスラエルの王將にヨシヤバテに言けるハ「我ハ服裝を變て戰陣の中にいらん、汝ハ朝衣を纏ひたまへと、イスラエルの王すなと、服裝を變へ二人俱に戰陣の中にいれり、エホバの王の戰車の長等にかれて命におけり、云く汝ら小き者ども大なる者ども、戰ふなかれ、惟イスラエルの王とのと戰へと、戰車の長等ヨシヤバテを見て是ハ「イスラエルの王ならんと言ひ、身をめぐらして之を戰はんとせしが、ヨシヤバテ號呼けれ、バエホバこれを助けたまへり、即ち神彼らを感動して之を離れ去めたまふ、戰車の長等彼が「イスラエルの王にわらざるを見しかば、之を退てどをやめて引返せり、技に一箇の人心なくハ弓を彎て「イスラエルの王の胸當と草摺の間に射わてたれば、彼らの御者に言けるハ「我傷を蒙たれば、汝手を旋らして我を軍中より出せ」と、此日戰争烈しくなりぬ、イスラエルの王ハ車の中に自ら扶持て立上、薄雲でスリア人をさし、へをりしが、日の没る頃にいたりて死す

エホバの王ヨシヤバテハ「善なくエホバに歸りて、その家に至れり、時に先見者ハナニの子エヒウヨシヤバテ王を出ひかへて之に言けるハ「汝惡き者を助け、エホバを惡む者を愛して可らんや、之がためにエホバの前より震怒なちの上に臨む、然ながら善事もまた汝の身に見ゆ、即ち汝ハアモテ像を國中より除き、かつ心を傾けて神を求むるなり」と、ヨシヤバテハ「エホバに往をりしが復出て、バエホバ

一節十六節

一節五九節
一節九廿一節
二節二七廿五節
三節二七廿六節
三節二七廿九節

よりエライの山地まで民の間を行めぐらうの先祖の神エホバにこれを導き歸せり 彼またエホバの一切の堅固なる邑に裁判人を立つ 國中の色々をなれり 而して裁判人に言けるハ汝等々の爲どころを慎め 汝らハ人のために裁判するに非ずエホバのために裁判するなり 裁判する時にエホバ汝らと偕にいはず 然ハ汝らエホバを畏れ懼めて事をなせ 我らの神エホバハ悪き事なく人を偏袒せどなく賄賂を取てど無ればなり ヨシヤバまたレヒ人祭司およびイスラエルの族長を選びてエホバに置きエホバの事および訴訟を審判せむ 彼らハエホバにハ入れり ヨシヤバテこれに命じて云く汝らエホバを畏れ眞實と誠心をもて欺てあふべし 凡てその邑々に住む汝らの兄弟血を相流せる事またハ律法と誠命、法度と條例などの事につきて汝らに罰へ出ること有ればこれを罰してエホバに罪を犯さざらめよ、恐らくハ震怒なれど汝らの兄弟にのみまへ、汝ら斯處てなば罪愆なかるべし 祇よ祭司の長アモリヤ汝らの上においてエホバの事を凡て言せり、エホバの家の宰イシヤエルの子セバツヤ王の事を凡て司る、亦レヒ人汝らの前にありて官吏とならん、汝ら心を強くして事をなせ、エホバ善人を祈れたまふべし

第二節 この後モアの子孫アモンの子孫アモン、エホバの神にさしやすに非ずや、異邦人の諸國を時に入きたりてヨシヤバテに告て云ふ海の彼旁スリヤより大衆汝も攻きたる、視よ今ハアモンタマにありと、ハサツツタルハすなはらエホバなり 是に於いてヨシヤバテ懼れ面をエホバに向てテの助けを求めエホバ全國に斷食を布命せられたるハ エホバ學て集りエホバの期を求めたり即ちエホバの一切の邑より人々きたりてエホバを求む 時にヨシヤバテエホバの室の新しい庭の前においてエホバとエホバに會衆の中を立ち 言けるハ我らの先祖の神エホバよ汝ハ天の神にさしやすに非ずや、異邦人の諸國を

ノ節一〇七
ノ節一〇八
ノ節一〇九
ノ節一一〇
ノ節一一一
ノ節一二二
ノ節一二三
ノ節一二四
ノ節一二五
ノ節一二六
ノ節一二七
ノ節一二八
ノ節一二九
ノ節一三〇
ノ節一三一
ノ節一三二
ノ節一三三
ノ節一三四
ノ節一三五
ノ節一三六
ノ節一三七
ノ節一三八
ノ節一三九
ノ節一四〇
ノ節一四一
ノ節一四二
ノ節一四三
ノ節一四四
ノ節一四五
ノ節一四六
ノ節一四七
ノ節一四八
ノ節一四九
ノ節一五〇
ノ節一五一
ノ節一五二
ノ節一五三
ノ節一五四
ノ節一五五
ノ節一五六
ノ節一五七
ノ節一五八
ノ節一五九
ノ節一六〇
ノ節一六一
ノ節一六二
ノ節一六三
ノ節一六四
ノ節一六五
ノ節一六六
ノ節一六七
ノ節一六八
ノ節一六九
ノ節一七〇
ノ節一七一
ノ節一七二
ノ節一七三
ノ節一七四
ノ節一七五
ノ節一七六
ノ節一七七
ノ節一七八
ノ節一七九
ノ節一八〇
ノ節一八一
ノ節一八二
ノ節一八三
ノ節一八四
ノ節一八五
ノ節一八六
ノ節一八七
ノ節一八八
ノ節一八九
ノ節一九〇
ノ節一九一
ノ節一九二
ノ節一九三
ノ節一九四
ノ節一九五
ノ節一九六
ノ節一九七
ノ節一九八
ノ節一九九
ノ節二〇〇
ノ節二〇一
ノ節二〇二
ノ節二〇三
ノ節二〇四
ノ節二〇五
ノ節二〇六
ノ節二〇七
ノ節二〇八
ノ節二〇九
ノ節二一〇
ノ節二一一
ノ節二一二
ノ節二一三
ノ節二一四
ノ節二一五
ノ節二一六
ノ節二一七
ノ節二一八
ノ節二一九
ノ節二二〇
ノ節二二一
ノ節二二二
ノ節二二三
ノ節二二四
ノ節二二五
ノ節二二六
ノ節二二七
ノ節二二八
ノ節二二九
ノ節二三〇
ノ節二三一
ノ節二三二
ノ節二三三
ノ節二三四
ノ節二三五
ノ節二三六
ノ節二三七
ノ節二三八
ノ節二三九
ノ節二四〇
ノ節二四一
ノ節二四二
ノ節二四三
ノ節二四四
ノ節二四五
ノ節二四六
ノ節二四七
ノ節二四八
ノ節二四九
ノ節二五〇
ノ節二五一
ノ節二五二
ノ節二五三
ノ節二五四
ノ節二五五
ノ節二五六
ノ節二五七
ノ節二五八
ノ節二五九
ノ節二六〇
ノ節二六一
ノ節二六二
ノ節二六三
ノ節二六四
ノ節二六五
ノ節二六六
ノ節二六七
ノ節二六八
ノ節二六九
ノ節二七〇
ノ節二七一
ノ節二七二
ノ節二七三
ノ節二七四
ノ節二七五
ノ節二七六
ノ節二七七
ノ節二七八
ノ節二七九
ノ節二八〇
ノ節二八一
ノ節二八二
ノ節二八三
ノ節二八四
ノ節二八五
ノ節二八六
ノ節二八七
ノ節二八八
ノ節二八九
ノ節二九〇
ノ節二九一
ノ節二九二
ノ節二九三
ノ節二九四
ノ節二九五
ノ節二九六
ノ節二九七
ノ節二九八
ノ節二九九
ノ節三〇〇

續たまふ非ずや汝の手にハ能力あり權勢ありて誰もなんぢを禦ぐこと能はざるに非ずや 我らの神よ 汝ハ此國の民を汝の民イスラエルの前より選ばらひて汝の友アブラハムの子孫を之を永く興へたまひしに非ずや 彼ら之に住み汝の名のために此に聖所を建て言へり 刑罰の劍疫病、饑饉などの災禍われらに臨せんとす 我らの前に立て汝の前のにをりうの苦難の中わて汝に呼籲らん、我らして汝聽て助けたまへ、汝の名のこの家にあれはなりと 今アモン、モアアおよびセイル山の子孫を祝たまへ、在昔イスラエルの國より出きたる時汝イスラエルに是等を侵さしめたまはざりしかば之を離れざりて滅ぼさざりしなり 我らに報ゆる所を祝たまへ、彼ら汝がわれらに有たしめたまへ 汝の産業より我らを選ばらはんとす 我らの神よ汝がわれらに轉きたまへざるや、我らに此期く攻ませたる此の大衆に營る能力なく又爲どころを知らず 誰汝を仰ぎ望むの事と エホバの八人々の小者および妻子とどもに告エホバの前に立ちをれり 時に會衆の中にてエホバの靈アサフの子孫たるレヒ人ヤハシエルの子なり ヤハシエルすなはち言けるハエホバの衆およびエホバの衆およびエホバの衆およびエホバの衆に臨めり ヤハシエルハセカリヤの子セカリヤハセナヤハシエルの子エホバの衆にヨシヤバテ王よ聽け 汝らとどもに在すエホバの拯救を見よ、懼る勿れ慄くなかれ、明日彼らの所に攻いでよエホバが汝らとどもに在せばなりと 是に於いてヨシヤバテ首をさげて地に俯伏しエホバの衆およびエホバの衆の民もエホバの口にて之を遇ん 此の戰爭にハ汝ら戦ふにおよばず、エホバおよびエホバの衆に汝ら惟進みいでよ立ち 汝らとどもに在すエホバの衆およびエホバの衆の衆を懼る勿れ慄くなかれ、明日彼らの所に攻いでよエホバが汝らとどもに在せばなりと 是に於いてヨシヤバテ首をさげて地に俯伏しエホバの衆およびエホバの衆の民もエホバの衆に臨めり ヤハシエルハセカリヤの子セカリヤハセナヤハシエルの子エホバの衆にヨシヤバテ王よ聽

ノ節一
ノ節二
ノ節三
ノ節四
ノ節五
ノ節六
ノ節七
ノ節八
ノ節九
ノ節一〇
ノ節一一
ノ節一二
ノ節一三
ノ節一四
ノ節一五
ノ節一六
ノ節一七
ノ節一八
ノ節一九
ノ節二〇
ノ節二一
ノ節二二
ノ節二三
ノ節二四
ノ節二五
ノ節二六
ノ節二七
ノ節二八
ノ節二九
ノ節三〇
ノ節三一
ノ節三二
ノ節三三
ノ節三四
ノ節三五
ノ節三六
ノ節三七
ノ節三八
ノ節三九
ノ節四〇
ノ節四一
ノ節四二
ノ節四三
ノ節四四
ノ節四五
ノ節四六
ノ節四七
ノ節四八
ノ節四九
ノ節五〇
ノ節五一
ノ節五二
ノ節五三
ノ節五四
ノ節五五
ノ節五六
ノ節五七
ノ節五八
ノ節五九
ノ節六〇
ノ節六一
ノ節六二
ノ節六三
ノ節六四
ノ節六五
ノ節六六
ノ節六七
ノ節六八
ノ節六九
ノ節七〇
ノ節七一
ノ節七二
ノ節七三
ノ節七四
ノ節七五
ノ節七六
ノ節七七
ノ節七八
ノ節七九
ノ節八〇
ノ節八一
ノ節八二
ノ節八三
ノ節八四
ノ節八五
ノ節八六
ノ節八七
ノ節八八
ノ節八九
ノ節九〇
ノ節九一
ノ節九二
ノ節九三
ノ節九四
ノ節九五
ノ節九六
ノ節九七
ノ節九八
ノ節九九
ノ節一〇〇
ノ節一〇一
ノ節一〇二
ノ節一〇三
ノ節一〇四
ノ節一〇五
ノ節一〇六
ノ節一〇七
ノ節一〇八
ノ節一〇九
ノ節一一〇
ノ節一一一
ノ節一一二
ノ節一一三
ノ節一一四
ノ節一一五
ノ節一一六
ノ節一一七
ノ節一一八
ノ節一一九
ノ節一二〇
ノ節一二一
ノ節一二二
ノ節一二三
ノ節一二四
ノ節一二五
ノ節一二六
ノ節一二七
ノ節一二八
ノ節一二九
ノ節一三〇
ノ節一三一
ノ節一三二
ノ節一三三
ノ節一三四
ノ節一三五
ノ節一三六
ノ節一三七
ノ節一三八
ノ節一三九
ノ節一四〇
ノ節一四一
ノ節一四二
ノ節一四三
ノ節一四四
ノ節一四五
ノ節一四六
ノ節一四七
ノ節一四八
ノ節一四九
ノ節一五〇
ノ節一五一
ノ節一五二
ノ節一五三
ノ節一五四
ノ節一五五
ノ節一五六
ノ節一五七
ノ節一五八
ノ節一五九
ノ節一六〇
ノ節一六一
ノ節一六二
ノ節一六三
ノ節一六四
ノ節一六五
ノ節一六六
ノ節一六七
ノ節一六八
ノ節一六九
ノ節一七〇
ノ節一七一
ノ節一七二
ノ節一七三
ノ節一七四
ノ節一七五
ノ節一七六
ノ節一七七
ノ節一七八
ノ節一七九
ノ節一八〇
ノ節一八一
ノ節一八二
ノ節一八三
ノ節一八四
ノ節一八五
ノ節一八六
ノ節一八七
ノ節一八八
ノ節一八九
ノ節一九〇
ノ節一九一
ノ節一九二
ノ節一九三
ノ節一九四
ノ節一九五
ノ節一九六
ノ節一九七
ノ節一九八
ノ節一九九
ノ節二〇〇
ノ節二〇一
ノ節二〇二
ノ節二〇三
ノ節二〇四
ノ節二〇五
ノ節二〇六
ノ節二〇七
ノ節二〇八
ノ節二〇九
ノ節二一〇
ノ節二一一
ノ節二一二
ノ節二一三
ノ節二一四
ノ節二一五
ノ節二一六
ノ節二一七
ノ節二一八
ノ節二一九
ノ節二二〇
ノ節二二一
ノ節二二二
ノ節二二三
ノ節二二四
ノ節二二五
ノ節二二六
ノ節二二七
ノ節二二八
ノ節二二九
ノ節二三〇
ノ節二三一
ノ節二三二
ノ節二三三
ノ節二三四
ノ節二三五
ノ節二三六
ノ節二三七
ノ節二三八
ノ節二三九
ノ節二四〇
ノ節二四一
ノ節二四二
ノ節二四三
ノ節二四四
ノ節二四五
ノ節二四六
ノ節二四七
ノ節二四八
ノ節二四九
ノ節二五〇
ノ節二五一
ノ節二五二
ノ節二五三
ノ節二五四
ノ節二五五
ノ節二五六
ノ節二五七
ノ節二五八
ノ節二五九
ノ節二六〇
ノ節二六一
ノ節二六二
ノ節二六三
ノ節二六四
ノ節二六五
ノ節二六六
ノ節二六七
ノ節二六八
ノ節二六九
ノ節二七〇
ノ節二七一
ノ節二七二
ノ節二七三
ノ節二七四
ノ節二七五
ノ節二七六
ノ節二七七
ノ節二七八
ノ節二七九
ノ節二八〇
ノ節二八一
ノ節二八二
ノ節二八三
ノ節二八四
ノ節二八五
ノ節二八六
ノ節二八七
ノ節二八八
ノ節二八九
ノ節二九〇
ノ節二九一
ノ節二九二
ノ節二九三
ノ節二九四
ノ節二九五
ノ節二九六
ノ節二九七
ノ節二九八
ノ節二九九
ノ節三〇〇

4 王三〇一
 5 王三〇二
 6 王三〇三
 7 王三〇四
 8 王三〇五
 9 王三〇六
 10 王三〇七
 11 王三〇八
 12 王三〇九
 13 王三〇一〇
 14 王三〇一一
 15 王三〇一二
 16 王三〇一三
 17 王三〇一四
 18 王三〇一五
 19 王三〇一六
 20 王三〇一七
 21 王三〇一八
 22 王三〇一九
 23 王三〇二〇
 24 王三〇二一
 25 王三〇二二
 26 王三〇二三
 27 王三〇二四
 28 王三〇二五
 29 王三〇二六
 30 王三〇二七
 31 王三〇二八
 32 王三〇二九
 33 王三〇三〇
 34 王三〇三一
 35 王三〇三二
 36 王三〇三三
 37 王三〇三四
 38 王三〇三五
 39 王三〇三六
 40 王三〇三七
 41 王三〇三八
 42 王三〇三九
 43 王三〇四〇
 44 王三〇四一
 45 王三〇四二
 46 王三〇四三
 47 王三〇四四
 48 王三〇四五
 49 王三〇四六
 50 王三〇四七
 51 王三〇四八
 52 王三〇四九
 53 王三〇五〇
 54 王三〇五一
 55 王三〇五二
 56 王三〇五三
 57 王三〇五四
 58 王三〇五五
 59 王三〇五六
 60 王三〇五七
 61 王三〇五八
 62 王三〇五九
 63 王三〇六〇
 64 王三〇六一
 65 王三〇六二
 66 王三〇六三
 67 王三〇六四
 68 王三〇六五
 69 王三〇六六
 70 王三〇六七
 71 王三〇六八
 72 王三〇六九
 73 王三〇七〇
 74 王三〇七一
 75 王三〇七二
 76 王三〇七三
 77 王三〇七四
 78 王三〇七五
 79 王三〇七六
 80 王三〇七七
 81 王三〇七八
 82 王三〇七九
 83 王三〇八〇
 84 王三〇八一
 85 王三〇八二
 86 王三〇八三
 87 王三〇八四
 88 王三〇八五
 89 王三〇八六
 90 王三〇八七
 91 王三〇八八
 92 王三〇八九
 93 王三〇九〇
 94 王三〇九一
 95 王三〇九二
 96 王三〇九三
 97 王三〇九四
 98 王三〇九五
 99 王三〇九六
 100 王三〇九七
 101 王三〇九八
 102 王三〇九九
 103 王三〇一〇〇

賜へりヨシヤバシハニエヌの王となり、二十五歳の時に即ち二十五歳の間エルサレムにて世を治めたり其母ハシルヒの女にして名をアスバどのいふヨシヤバシハの父アサの道にあゆみて之を離れずエホバの目に善と觀たふ事を行へり然れども崇卑ハいまだ除かず、又民ハいまだアサの先祖の神に心を傾けざりきヨシヤバシハの餘の始終の行爲ハナニの子エヒサの書に記さる、エヒサの事ハイナラエルの列王の書に載すヨシヤバシハ後にイナラエルの王アハツアと相結べり、アハツアハ大に惡を行ふ者なりきヨシヤバシハに遣る舟を遣らんとて彼と相結てニソコンゲルにて舟に舟數隻を遣れり時にマレシヤの王ダリの子エリエセハヨシヤバシハにむかひて預言して云ふ汝アハツアと相結びたればニホバなんかの作りし者を毀ちたまふと、即ちその舟ハ皆壞れてマルシムに往てとを得ざりきヨシヤバシハの先祖等とどに寝りてアヒサの邑にアサの先祖等とともて葬られりの子ヨシヤバシハに代て王となるヨシヤバシハの子たるアサの兄弟ハアサリヤ、エヒニル、セカリヤ、アサリヤ、ミカエルおよびシバチヤ、甚かなイナラエルの王ヨシヤバシハの子なりアサの父彼らに金銀寶物の賜物を多く與へたエヌの守備の邑々を興へける國ハヨシヤバシハに興へたり、ヨシヤバシハ長子なりければなりヨシヤバシハの父の位に登りてカフよくなければの兄弟等をとどく劍にかけて殺し又イナラエルの敬信等數人を殺せりヨシヤバシハ三十二歳の時位に即ちエルサレムにて八年の間世を治めたり彼ハアサの家のなせるごとくイナラエルの王等の道にあゆめり、アサの女を妻となしたればなり、斯かれニホバの目に惡と觀たふ事なせしかどもニホバは據にアヒサに契約をなし且彼アサの子孫とに永遠に光明を興へ

1 王三〇九
 2 王三〇一〇
 3 王三〇一一
 4 王三〇一二
 5 王三〇一三
 6 王三〇一四
 7 王三〇一五
 8 王三〇一六
 9 王三〇一七
 10 王三〇一八
 11 王三〇一九
 12 王三〇二〇
 13 王三〇二一
 14 王三〇二二
 15 王三〇二三
 16 王三〇二四
 17 王三〇二五
 18 王三〇二六
 19 王三〇二七
 20 王三〇二八
 21 王三〇二九
 22 王三〇三〇
 23 王三〇三一
 24 王三〇三二
 25 王三〇三三
 26 王三〇三四
 27 王三〇三五
 28 王三〇三六
 29 王三〇三七
 30 王三〇三八
 31 王三〇三九
 32 王三〇四〇
 33 王三〇四一
 34 王三〇四二
 35 王三〇四三
 36 王三〇四四
 37 王三〇四五
 38 王三〇四六
 39 王三〇四七
 40 王三〇四八
 41 王三〇四九
 42 王三〇五〇
 43 王三〇五一
 44 王三〇五二
 45 王三〇五三
 46 王三〇五四
 47 王三〇五五
 48 王三〇五六
 49 王三〇五七
 50 王三〇五八
 51 王三〇五九
 52 王三〇六〇
 53 王三〇六一
 54 王三〇六二
 55 王三〇六三
 56 王三〇六四
 57 王三〇六五
 58 王三〇六六
 59 王三〇六七
 60 王三〇六八
 61 王三〇六九
 62 王三〇七〇
 63 王三〇七一
 64 王三〇七二
 65 王三〇七三
 66 王三〇七四
 67 王三〇七五
 68 王三〇七六
 69 王三〇七七
 70 王三〇七八
 71 王三〇七九
 72 王三〇八〇
 73 王三〇八一
 74 王三〇八二
 75 王三〇八三
 76 王三〇八四
 77 王三〇八五
 78 王三〇八六
 79 王三〇八七
 80 王三〇八八
 81 王三〇八九
 82 王三〇九〇
 83 王三〇九一
 84 王三〇九二
 85 王三〇九三
 86 王三〇九四
 87 王三〇九五
 88 王三〇九六
 89 王三〇九七
 90 王三〇九八
 91 王三〇九九
 92 王三〇一〇〇

前に伏てエホバを拜す時にコサの子孫およびコサの子孫たるレヒ人立あがり聲を高くあげてイナラエルの神ニホバを讚美せりかくて昏朝はやく起てテコロの野に出ゆけり、其いつるに當りてヨシヤバシハ立て言けるハニエヌの人衆およびニルサレムの民よ我に聽け、汝らの神ニホバを信せよ然んば汝ら堅くあらん、その預言者を信せよ然んば汝ら利あらん彼また民と議りて人々を選び之をして聖き師を着て軍勢の前に進せしめエホバにむかひて歌をうたひ且て之を讚美せしめエホバに感謝せよ其愚恵ハ世々かぎりなしと言しむその歌を歌ひ讚美をなし汝らに當りてニホバ伏兵を設けカニエヌに攻められるヲシモツ、モアツ、セイル山の子孫をなやましたまひければ彼ら打敗られたり即ちアモンとモアツの子孫起てセイル山の民にむかひ、盡く之を殺して滅じしがセイルの民を殺し盡すに及びて彼らも亦力をいだし互に滅ぼしあへりエヌの人々野の觀望所に至りてかの群衆を視たりければ唯地に仆れたる死屍のみにして一人に逃れし者なかりき是に於いてヨシヤバシハおよび珠玉などおびたしく在たれば即ち各々これ剣を刺さるが餘に多くして携さへ去て能はざる程なりき、其物多かりしに因て之を取に三日を費しけるが第四日にシカ(感謝)の谷に集り其處にてエホバに感謝せし是をもてその處の名を今日までベラカ(感謝)の谷と呼ぶ而してエヌとエルサレムの人々みな各々歸りきたりヨシヤバシハの後に來たがひ歡びてエルサレムに至れり、其ハエホバ彼等としての敵の故によりて歡喜を得させたまひたればなり即ち彼ら惡妻および喇叭を合奏してエルサレムに往てエホバの室にいたる諸の國の民エホバがイナラエルの敵を攻撃たまひしことを開て神を畏れたればヨシヤバシハの國ハ本穩なりき即ちその神四方に於いて之に安んず

今言たまひし故によりて、エホバの家を滅ぼすことを欲み給はざりしヨラムの世に、エホバが手に入らば、自ら王を立てられ、ヨラム其牧伯等より一切の戦車を没たがへて、涉りゆき夜の半に起いで、自己を圍めるエホバ人を撃ち、エホバの戦車の長等を撃つ。エホバ人の斯く疾きて、エホバの手に服せざるは、今日まで然り。此時にわたつてリテ、エホバもまた鞭きて、エホバの手に服せざるは、エホバを棄たるに因てなり。彼またエホバの山々に崇邱を作りて、エホバの民に、姦淫をあたへせしむ。エホバを感ばせり。時に預言者エホバの書ヨラムの評に達せり。其言に云く、汝の先祖エホバの神エホバかく言たまふ。汝の父エホバの道におゆま、汝の王家の道におゆま。エホバの王家の道におゆみ。エホバの人とエホバの民をして、エホバの民に姦淫をなせざるごとく、に姦淫を行せしめ。汝の父の家の者にして、汝に愈れる。その汝の兄弟等を殺せり。故にエホバ大なる災禍をもて、汝の民汝の子、汝の妻等および汝の一切の所有を撃たまへ。汝にまた、汝の病を得て、大疾になり、その疾日に重りて、臍つひに墜れ、即ちエホバヨラムを攻ざせんとて、エホバに近きところのベリセ人、エホバの心を取起したまひければ、彼らエホバの攻めたりて、之を、エホバの家に在りて、その貨財を盡く奪取り、またヨラムの子等と妻等をも、携へ去り、是をもて、その末子エホバの外に一人も遺れる者なかりき。此も、その事の後、エホバ彼を撃つに、愈ざる疾を生せしめたまひければ、月日を送り、二年を経るに、およびて、その臍病のために墜れ、重き痛苦によりて、死す。民かれの先祖のために、祭物をなせし如く、彼のために、祭物をなせしむ。彼三十二歳の即位に、即ち八年の間、エホバの世を治め、て終に薨去れり。之を惜む者なかりき。人衆これを見、エホバの世に、王等の墓に、いあらず。

ホ 千八百

一 千七百五十五節

二 千七百一十一節

三 千六百六十九節

四 千六百三十三節

五 千六百零七節

六 千六百零七節

七 千六百零七節

八 千六百零七節

九 千六百零七節

十 千六百零七節

エホバの民ヨラムの季子エホバを王と立て、之に繼し、其の曾て、エホバの王にして、エホバの王家の道におゆま。エホバの王家の道におゆみ。エホバの人とエホバの民をして、エホバの民に姦淫をなせざるごとく、に姦淫を行せしめ。汝の父の家の者にして、汝に愈れる。その汝の兄弟等を殺せり。故にエホバ大なる災禍をもて、汝の民汝の子、汝の妻等および汝の一切の所有を撃たまへ。汝にまた、汝の病を得て、大疾になり、その疾日に重りて、臍つひに墜れ、即ちエホバヨラムを攻ざせんとて、エホバに近きところのベリセ人、エホバの心を取起したまひければ、彼らエホバの攻めたりて、之を、エホバの家に在りて、その貨財を盡く奪取り、またヨラムの子等と妻等をも、携へ去り、是をもて、その末子エホバの外に一人も遺れる者なかりき。此も、その事の後、エホバ彼を撃つに、愈ざる疾を生せしめたまひければ、月日を送り、二年を経るに、およびて、その臍病のために墜れ、重き痛苦によりて、死す。民かれの先祖のために、祭物をなせし如く、彼のために、祭物をなせしむ。彼三十二歳の即位に、即ち八年の間、エホバの世を治め、て終に薨去れり。之を惜む者なかりき。人衆これを見、エホバの世に、王等の墓に、いあらず。

一 千八百零七節
 二 千八百零七節
 三 千八百零七節
 四 千八百零七節
 五 千八百零七節
 六 千八百零七節
 七 千八百零七節
 八 千八百零七節
 九 千八百零七節
 十 千八百零七節
 十一 千八百零七節
 十二 千八百零七節
 十三 千八百零七節
 十四 千八百零七節
 十五 千八百零七節
 十六 千八百零七節
 十七 千八百零七節
 十八 千八百零七節
 十九 千八百零七節
 二十 千八百零七節
 二十一 千八百零七節
 二十二 千八百零七節
 二十三 千八百零七節
 二十四 千八百零七節
 二十五 千八百零七節
 二十六 千八百零七節
 二十七 千八百零七節
 二十八 千八百零七節
 二十九 千八百零七節
 三十 千八百零七節
 三十一 千八百零七節
 三十二 千八百零七節
 三十三 千八百零七節
 三十四 千八百零七節
 三十五 千八百零七節
 三十六 千八百零七節
 三十七 千八百零七節
 三十八 千八百零七節
 三十九 千八百零七節
 四十 千八百零七節
 四十一 千八百零七節
 四十二 千八百零七節
 四十三 千八百零七節
 四十四 千八百零七節
 四十五 千八百零七節
 四十六 千八百零七節
 四十七 千八百零七節
 四十八 千八百零七節
 四十九 千八百零七節
 五十 千八百零七節
 五十一 千八百零七節
 五十二 千八百零七節
 五十三 千八百零七節
 五十四 千八百零七節
 五十五 千八百零七節
 五十六 千八百零七節
 五十七 千八百零七節
 五十八 千八百零七節
 五十九 千八百零七節
 六十 千八百零七節
 六十一 千八百零七節
 六十二 千八百零七節
 六十三 千八百零七節
 六十四 千八百零七節
 六十五 千八百零七節
 六十六 千八百零七節
 六十七 千八百零七節
 六十八 千八百零七節
 六十九 千八百零七節
 七十 千八百零七節
 七十一 千八百零七節
 七十二 千八百零七節
 七十三 千八百零七節
 七十四 千八百零七節
 七十五 千八百零七節
 七十六 千八百零七節
 七十七 千八百零七節
 七十八 千八百零七節
 七十九 千八百零七節
 八十 千八百零七節
 八十一 千八百零七節
 八十二 千八百零七節
 八十三 千八百零七節
 八十四 千八百零七節
 八十五 千八百零七節
 八十六 千八百零七節
 八十七 千八百零七節
 八十八 千八百零七節
 八十九 千八百零七節
 九十 千八百零七節
 九十一 千八百零七節
 九十二 千八百零七節
 九十三 千八百零七節
 九十四 千八百零七節
 九十五 千八百零七節
 九十六 千八百零七節
 九十七 千八百零七節
 九十八 千八百零七節
 九十九 千八百零七節
 百 千八百零七節